

**黒部市宇奈月温泉スキ一場検討委員会
報 告 書**

平成 30 年 3 月

黒部市宇奈月温泉スキ一場検討委員会

目 次

はじめに	1 ページ
(1) スキー場の歴史と果たしてきた役割	
(2) 検討委員会立ち上げに至る背景	
1 スキー場の現状について	3 ページ
(1) 沿革	
(2) 施設・設備	
(3) 営業状況	
2 スキー場を取り巻く課題について	7 ページ
(1) 施設面の課題	
(2) 経営面の課題	
(3) 運営面の課題	
(4) その他の課題	
3 宇奈月温泉スキー場のあり方について	11 ページ
(委員の共通認識)	
(1) 「スキー場の中長期のあり方」と「大原台地域を含めた方向性及び管理・運営方法」について	
(2) 「スキー場の当面（短期）の運営」について	
4 総括	17 ページ
5 参考資料	18 ページ
(1) 委員会設置要綱	
(2) 委員名簿	
(3) 討議経過	

■はじめに

(1) スキー場の歴史と果たしてきた役割

宇奈月町史（昭和 44 年 宇奈月町史編纂委員会）と追録宇奈月町史（平成元年 宇奈月町史追録編纂委員会）によると、宇奈月温泉開湯間もない大正 15 年頃、大原台地域に今のスキー場の前身である「宇奈月スキー場」がオープンしました。

戦前は、第 1 回北日本スキー大会をはじめとして、各種大会が開催されるなど、多くのスキー客で賑わいました。

戦後、昭和 31 年には、宇奈月スキーリフト株式会社が設立され、県内初の本格的な設備を備えた「宇奈月温泉スキー場」がオープンし、その後長年に渡り、旧宇奈月町の観光振興の一翼を担い、さらに冬期のスポーツ振興の中核施設に位置付けられてきました。

観光振興の面では、宇奈月温泉街の「パパ、ママ温泉、ぼくスキー」というキャッチフレーズの下、スキー場が冬期の宿泊客誘致に大いに寄与し、昭和 58 年度には約 59,000 人の利用がありました。

一方、スポーツ振興の面では、昭和 50 年代から平成初期まで、県大会で常に好成績を収めた地元の宇奈月中学校スキー部がスキー場で練習を重ねました。

また、多くの大会もスキー場で開催されるとともに、さらにスキー学習を兼ねた修学旅行生も数多く訪れました。

しかしながら、平成に入り、レジャーの多様化、暖冬傾向に起因する雪不足、県内外における大規模スキー場の開設と交通網の発達に伴う利用者の流出などにより、平成 6 年度の利用者数は、ピーク時の昭和 58 年度と比較して、7 割減の約 16,000 人まで落ち込みました。

平成 7 年度には、オープン以降、運営を行ってきた宇奈月スキーリフト株式会社が解散し、その後は、旧宇奈月町（平成 18 年の合併後は黒部市）が運営を引き継ぎ、行政直営のスキー場として、今日に至っています。

このように、戦前、戦後を通じ、宇奈月温泉のシンボルとして、スキー場が旧宇奈月町の観光振興及びスポーツ振興に大きく寄与してきたという歴史があります。

(2) 検討委員会立ち上げに至る背景

昭和 31 年に県内初の本格的なスキー場としてオープンした宇奈月温泉スキー場ですが、レジャーの多様化、県内外における大規模スキー場の開設と交通網の発達に伴う利用者の流出、さらに暖冬傾向に起因する雪不足により、利用者数、売上げの減少が平成 7 年度の行政直営化後も続いたことから、平成 19 年度に関係団体等の代表者や学識経験者らで構成する「黒部市宇奈月温泉スキー場検討委員会」を設置し、施設の存廃も含め、協議を行いました。

同委員会での答申を踏まえ、平成 20 年 11 月に宇奈月温泉スキー場の運営及びスキー場一帯の大原台地域の活性化を目的とした「宇奈月大原台」が設立されました。

設立以降は同団体がリフト運行やゲレンデ整備等のシーズン中のスキー場運営を担い、さらにスノーフェスタや毎週日曜日のイベント開催等、来場者に楽しんで頂けるような取り組みも実施してきました。

しかしながら、同団体は任意団体であることなどから、スキー場の運営の継続ができず、平成 25 年度からは、スキー場の運営を一般財団法人黒部市施設管理公社が担うことになり、同団体はイベント中心の活動となりました。

また、その間の利用者数については、一旦は微増傾向にありましたが、平成 26 年度の大雪による第 1 ペアリフト保護設備損壊に伴う臨時休業、平成 27 年度、28 年度の暖冬による雪不足から再度、減少傾向に転じ、結果的に前回答申時と状況は変わっていません。

このような状況を踏まえ、黒部市では、「中長期的に現状の体制及び経費では、スキー場の運営を続けることは困難である」との判断に至り、改めてスキー場のあり方を検討するため、平成 29 年 8 月に再び同委員会を立ち上げ、検討をスタートさせました。

1 スキー場の現状について

(1) 沿革

昭和 31 年に宇奈月スキーリフト株式会社が設立され、県内初の本格的なスキー場として宇奈月温泉スキー場がオープンしました。

昭和 40 年に同社を第 3 セクターに組織変更し、昭和 40 年代～50 年代にリフトを順次増設しました。

平成 7 年に同社が解散し、旧宇奈月町が運営を引き継ぎ、以降は行政直営のスキー場として、今日に至っています。

主な出来事については、【表 1】の年表のとおりとなっています。

【表 1】年 表

年	主な出来事
昭和 31 年	宇奈月スキーリフト (株) 設立 宇奈月温泉スキー場オープン
昭和 40 年	宇奈月スキーリフト (株) が第 3 セクターに組織変更 上山用 1 号リフト完成
昭和 42 年	5 号リフト完成
昭和 53 年	6 号、7 号リフト完成
昭和 59 年	上山用 1 号リフトをペアリフトに改修 (現第 1 ペアリフト)
平成 5 年	5 号リフト解体
平成 7 年	宇奈月スキーリフト (株) 解散 宇奈月町の町営スキー場として営業開始
平成 9 年	3 号リフトをペアリフトに改修 (現第 3 ペアリフト)
平成 17 年	第 1 ペアリフト保護設備損壊
平成 18 年	雪不足のため営業休止 (12 月)
平成 19 年	雪不足のため営業休止 (1 月～3 月) 「黒部市宇奈月温泉スキー場検討委員会」設置 (7 回開催)
平成 20 年	6 号リフト、7 号リフト解体 (第 3 ペアリフトのみ利用料徴収) 宇奈月大原台設立 (シーズン中のリフト運行・ゲレンデ整備を担う)
平成 24 年	宇奈月温泉スキー場条例改正 (休業日の設定 (火曜日、水曜日))
平成 25 年	シーズン中のリフト運行・ゲレンデ整備を宇奈月大原台から (一財) 黒部市施設管理公社に交代
平成 26 年	第 1 ペアリフト保護設備損壊
平成 29 年	「黒部市宇奈月温泉スキー場検討委員会」設置 (5 回開催)

(2) 施設・設備

①面積 75,130.36㎡[市有地(33,104.95㎡)、その他は民有地(42,025.41㎡)]

②標高 350m~435m

③設備

【リフト】

	第1ペアリフト	第3ペアリフト
距離	359.9m	313.54m
高低差	104.5m	85.45m
運転速度	1.3m/秒	1.6m/秒
乗車人員	2人	2人
搬器間隔	10.4m/8秒	12.8m/8秒
搬器数	70台	49台
設置年月日	昭和59年12月25日	平成9年12月20日

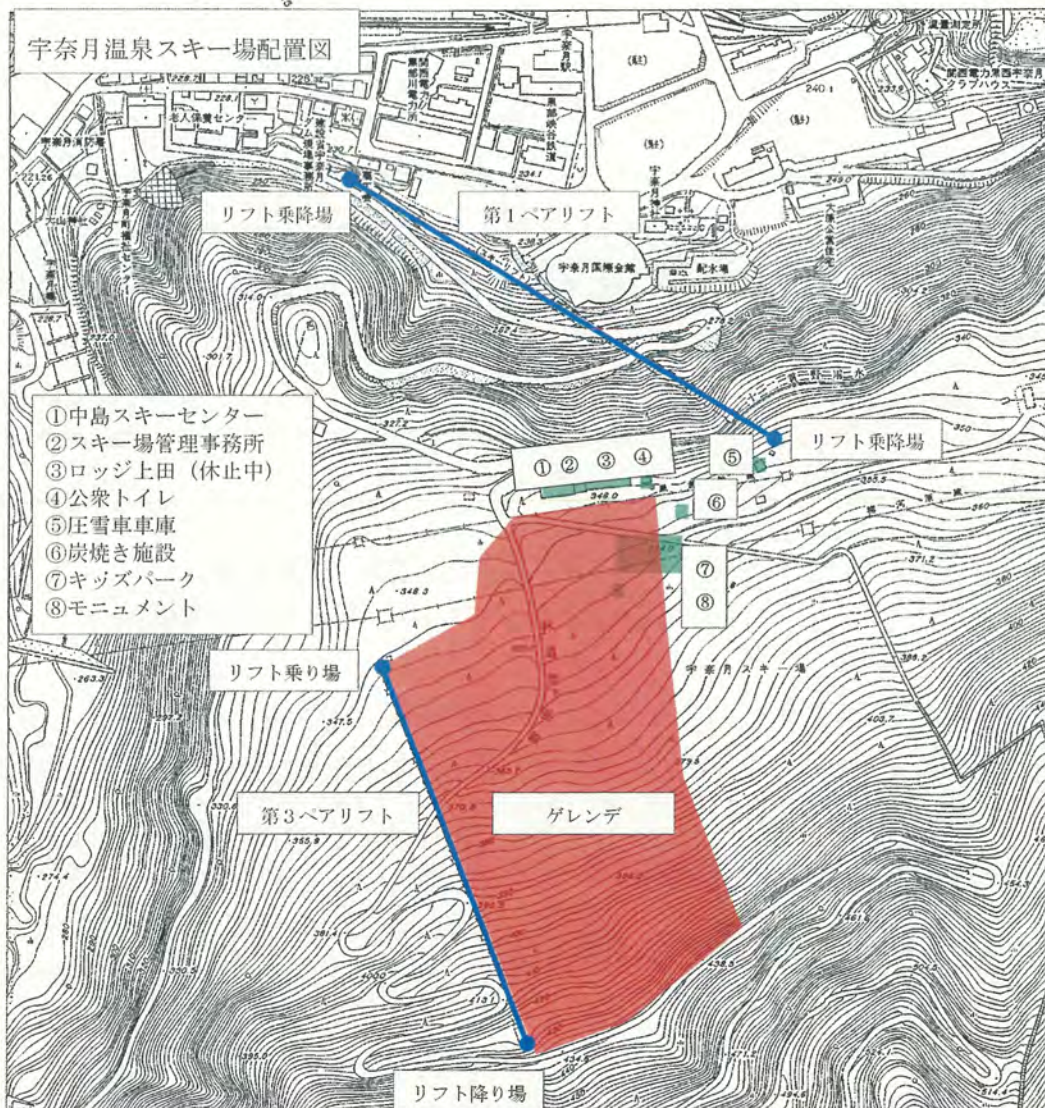
【その他】

圧雪車：2台(昭和61年購入SRWDLK1248号、平成6年購入ピステンPB206D)

除雪車：2台(昭和59年購入ヤマハ歩行式、昭和61年購入ヤマハ歩行式)

スノーモービル：1台(平成15年購入、牽引用ソリ台含む)

④施設等の配置状況



(3) 営業状況 [平成19年度から平成28年度までの10年間の状況]

※平成29年度は平成30年3月4日営業終了時の速報値を記載しています。

①利用者数

平成24年度の7,974人をピークに、平成26年度以降の3年間は、雪不足による営業日数の減少などが影響し、2,800人～4,800人台を推移しています。

②収入（リフト券収入）

営業日数と利用者数の増減により、営業収入は、概ね1,000千円～3,000千円台で推移しています。

なおリフト料金（【表2】）については、県内スキー場のリフト料金（【表3】）よりも低く設定されています。

③支出金額

スキー場を運営するために必要な経費の支出については、営業日数の多寡に関係なく、概ね20,000千円～30,000千円台を推移していますが、平成27年度は、平成26年度に損壊した第1ペアリフト保護設備の復旧工事を行ったことにより、支出金額が50,030千円となっています。

④収支

概ね20,000千円前後の赤字で推移していますが、平成26年度は第1ペアリフトの保護設備損壊に伴う休止により、代替輸送手段として雪上車を使用したこと、平成27年度は同設備の復旧工事を行ったことから、収支が極端に悪化しています。

【図1】宇奈月温泉スキー場の営業状況推移



【表2】宇奈月温泉スキー場リフト料金表

種別	大人（高校生以上）	小人（中学生以下）
1日券	1,540円	1,020円
半日券	1,020円	510円
シーズン券	7,190円	4,110円
早割シーズン券	6,170円	3,080円

【表3】県内スキー場のリフト料金の状況（1日券、半日券、シーズン券）

種別	大人（高校生以上）	小人（中学生以下）
1日券	2,700円～4,100円	1,900円～2,550円
半日券	2,000円～3,080円	1,500円～2,050円
シーズン券	23,000円～44,000円	10,290円～25,700円

※県内スキー場の概ねの状況を記載しています。

2 スキー場を取り巻く課題について

宇奈月温泉スキー場は、オープン以来、旧宇奈月町、黒部市唯一のスキー場として、観光振興並びにスポーツ振興に寄与してきましたが、施設の老朽化、スキー人口の減少、県内外のスキー場への利用者の流出及び気象条件の変化（暖冬傾向）により、施設面、経営面及び運営面のあらゆる部分で、課題が顕著になっています。

(1) 施設面の課題

施設面の主な課題については、「①老朽化」、「②立地上の制約」、「③索道^(注1)輸送における制約」があります。

(注1) 鉄道事業法におけるリフト、ゴンドラ、ロープウェイ等の総称

①老朽化

宇奈月温泉スキー場の施設及び車両については、整備又は購入から新しいものでも10年以上、古いものでは35年近く経過し、老朽化による故障の頻度が増え、安全面、コスト面にも影響を及ぼしています。

◎主な施設（整備又は購入年度）※平成30年3月現在での経過年数を記載しています。

【リフト】 第1ペアリフト（昭和59年度 33年経過）

第3ペアリフト（平成9年度 20年経過）

【車 両】 圧雪車 SRWDLK 1248号（昭和61年度 31年経過）

圧雪車ピステン PB206D（平成6年度 23年経過）

除雪車ヤマハ歩行式（昭和59年度 33年経過）

除雪車ヤマハ歩行式（昭和61年度 31年経過）

スノーモービル（平成15年度 14年経過）



第1ペアリフト



第3ペアリフト



除雪車、スノーモービル



圧雪車 PB206D（ピステン）



圧雪車 SRWDLK（大原）

②立地上の制約

宇奈月温泉スキー場は標高 350m～435mの間で、県内でも比較的標高が低い場所に位置しています。

そのため、例年の降雪が平野部より僅かに早いだけで、他のスキー場と比較すると、滑走可能な積雪になる時期が非常に遅く、その年の積雪多寡により、営業日数が大きく左右されています。（【表 4】）

また、標高が低いことから雪質は他のスキー場と比較しても、良質とは言えず、さらに滑走距離も短いので、利用者に満足頂けるようなゲレンデ条件を常に提供できないことが課題となっています。

【表 4】最近 5 年間の営業開始日及び営業日数の推移

年度	営業開始日	営業日数	営業期間
平成 24 年度	12 月 26 日	48 日	12/26～3/3 ※12/28 臨時休業
平成 25 年度	12 月 31 日	51 日	12/31～3/9
平成 26 年度	12 月 20 日	38 日	12/20～1/4、2/1～3/1 ※1/5～31 臨時休業
平成 27 年度	1 月 28 日	29 日	1/28～3/6
平成 28 年度	1 月 19 日	34 日	1/19～3/5
(参考) 平成 29 年度	12 月 23 日	54 日	12/23～3/4 ※1/26～27 臨時休業

③索道輸送における制約

宇奈月温泉スキー場のリフトについては、第 1 ペアリフト、第 3 ペアリフトともに「特殊索道^(注2)」に分類され、原則、スキー等の滑走を目的としない者は乗車できないものとなっています。

また、両リフトともセーフティーバーを備えていないこと、運転可能な「地上から搬器座面までの高低差の基準^(注3)」については、積雪量を考慮した上で設計されていることから、グリーンシーズン^(注4)の運転に必要な設備や基準を満たしていません。

(注 2) 座席式のリフトは「特殊索道」、ゴンドラやロープウェイは「普通索道」に分類されます。

(注 3) リフトの距離、傾斜角度の大小、セーフティーバー、減速器の有無及び予備原動機の有無等の諸条件により、規定が違ってきますが、宇奈月温泉スキー場の場合、第 1 ペアリフトで概ね 6 m 以内、第 3 ペアリフト(予備原動機有り)で概ね 5 m 以内にならないと運転できないこととなっています。

((一財) 日本鋼索交通協会「索道施設標準・管理標準及び同解説」)

(注 4) 春～秋のスキー場のオフシーズン

(2) 経営面の課題

収入面については、レジャーの多様化によるスキー人口の減少、県内外の規模が大きいスキー場への利用者の流出に加え、雪不足による営業日数の減少により、利用者数、収入とも低迷しています。

支出面については、人件費や老朽化している索道等の修繕工事が大きな割合を占めており、恒常的な赤字構造となっています。〔表5〕

【表5】最近5年間の収支状況（千円）

年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	(参考) H29年度
収入（リフト券）	3,305	3,328	1,648	1,271	2,015	3,380
支出	25,322	28,475	37,899	50,030	23,699	23,237
（支出のうち人件費）	(6,061)	(8,162)	(8,212)	(6,355)	(7,036)	(7,888)
（支出のうち工事請負費）	(5,250)	(7,880)	(10,202)	(31,525)	(3,917)	(1,939)
収支	▲22,017	▲25,147	▲36,251	▲48,759	▲21,684	▲19,857

【図2】最近5年間の収支、利用人数



※平成29年度は平成30年3月4日営業終了時の速報値を記載しています。

(3) 運営面の課題

リフト運行やゲレンデ整備等、運営面における課題については、「索道事業の継続」、「従業員等の確保」及び「ゲレンデの賑わいづくり」の3つがあります。

索道事業の継続については、リフトを運行するためには、国土交通省から「索道事業」の認可を受け、現場に索道技術管理者を配置する必要があります。

現在、スキー場にはこの資格を持った者が1名しかいないため、リフトを運行するスキー場として継続するには、新たな索道技術管理者の養成が必要となります。

従業員等の確保については、スキー場の営業期間から、季節的な雇用形態となり、通年雇用を望む若者にとっては、働きづらい条件となっているため、世代交代が進まず、現在の従業員が退職した場合、必要な人員を補充できない状況に陥る可能性があります。

さらに圧雪車の運転のように専門性や一定の能力を有するまで時間を要する業務もあり、このような専門職員の確保についても、課題となっています。

ゲレンデの賑わいづくりについては、イベント活動を行う宇奈月大原台が、法人格を有していない任意団体であることから大きな事業展開ができないこと、また会員の高齢化に伴う実活動人数の減少により、年々活動の幅が狭まってきています。

(4) その他の課題

その他の課題としては、スキー以外のスノー遊具^(注5)への対応、グリーンシーズンの活用方法があります。

特にグリーンシーズンの活用については、過去、宇奈月大原台で温泉マークをイメージした芝桜の植栽や燻炭炉を使用した炭焼き等の様々な取り組みを行いました。

しかしながら、運営面の課題でも述べましたようにマンパワーの低下などにより、取り組みを継続できていない現状があります。

(注5) スノーラフティング(ゲレンデ滑走用のゴムボート) やスノーシュー(西洋かんじき)等

3 宇奈月温泉スキー場のあり方について

(委員の共通認識)

宇奈月温泉に隣接し、歴史のあるスキー場は、現在、低迷する利用者数、老朽化が著しい施設・設備、人材不足及び恒常的な赤字構造等、数多くの課題に直面しています。

本委員会では、「スキー場の中長期のあり方」と「大原台地域を含めた方向性及び管理・運営方法」並びに「スキー場の当面（短期）の運営」について、検討を重ねた結果、以下の共通認識が得られました。

【委員の共通認識】

(1) 「スキー場の中長期のあり方」と「大原台地域を含めた方向性及び管理・運営方法」について

【スキー場の中長期のあり方】

- ◎施設面の課題としては、リフト及び圧雪車等の更新を行う必要があるが、現在の利用状況では、困難である。
- ◎運営面の課題については、収支の改善と利用者数増の2つの視点がある。
- ◎経費節減について、様々な観点から検討は必要であるが、安全面に関わる経費は、これ以上節減すべきではない。
- ◎利用者数増については、各種取り組みの推進により、努力の余地がある。

【大原台地域を含めた方向性及び管理・運営方法】

- ◎スキー以外の利用やグリーンシーズン対策を検討すべきである。
- ◎宇奈月温泉の一部として、通年利用を考えるべきである。
- ◎周辺との一帯活用を考えるべきである。
- ◎宇奈月温泉の観光振興における司令塔が必要である。
- ◎大原台地域を拠点とした黒部峡谷・宇奈月温泉活性化策を検討すべきである。

(2) 「スキー場の当面（短期）の運営」について

- ◎改善が図られないままでの運営は困難である。
- ◎利用者数増に向けた目標を設定すべきである。

(1)「スキー場の中長期のあり方」と「大原台地域を含めた方向性及び管理・運営方法」について

「スキー場の中長期のあり方」を考える上で、まず大きな課題となってくるのが、老朽化が著しい施設面です。

特に第1ペアリフト、圧雪車及びトイレは、今後、スキー場として運営を継続する場合、大規模修繕又は更新が必要となります。

加えて、第1ペアリフトについては、大規模修繕が不可能な場合は、雪上車等による代替輸送を導入する必要があります。

また、第3ペアリフトについても、設置から20年経過し、第1ペアリフトほどではないものの、老朽化が進んでいます。

しかしながら、これらのことを抜本的に解決するには、多額の費用が必要となり、さらにその後の維持管理についても、一定の年数が経過すれば、安全確保のため、現状と同程度の費用が掛かることから、結果的には同じことの繰り返しになります。

さらに以前と違い、レジャーの多様化や交通網の発達により近隣の規模の大きなスキー場に行きやすくなったことから、抜本的な施設の更新を行ったとしても、収入を以て、支出を賄える程の利用者数に達することは難しいと考えられます。

次に運営面ですが、恒常的な赤字構造を解決するためには、「収支の改善」と「利用者数増」が課題となってきます。

収支については、休日のみの営業や営業時間の短縮など、更なる経費節減の検討も必要ですが、安全面に関わる経費は運営の根幹をなすことから、これ以上減らすことは望ましくありません。

一方、利用者数は、PR方法の見直しや地域が一体となった各種の取り組みを行い、インバウンドや市内外のシニア層及びファミリー層へのアプローチやスキー以外の利用を促進し、一層の増加を図ることについては、努力の余地があります。

しかしながら、最終的には、利用者数が大幅に増加しない限り、大規模な設備投資を行ってまで、存続することは、難しいと考えられます。

一方で、スキー場が位置する大原台地域の観光資源としての魅力を考慮すると、スキー以外の利用やグリーンシーズン利用を促進し、通年利用の観光施設として活用できる可能性があります。

通年利用可能な観光施設としての活用については、「大原台地域を含めた方向性及び管理・運営方法」の検討の中で共通認識が得られた「宇奈月温泉の一部としての通年利用」と「周辺との一帯活用」の視点から「とちの森遊歩道を活用した自然散策」、「平和の像広場と大原台自然公園管理棟の再整備」、「僧ヶ岳県立自然公園

の利用促進」、「大原台ゴンドラリフト構想」及び「黒部峡谷と連携した滞在型観光の促進」などの周辺地域も含めた観光振興を考える枠組みの中で、新たに検討することが望ましいと考えられます。

(2) 「スキー場の当面（短期）の運営」について

当面の運営については、利用者数の減少、施設の老朽化、人材不足、恒常的な赤字等により、現行の体制及び経費では、運営を続けることは、困難であることから、改善を図ります。

改善の考え方については、収支面、利用者数で目標を定め、収支の目標は、「現状の赤字幅を増大させない」こととし、利用者数は、「具体的な目標値を設定した上で地域が一体となって、取り組みを進める」こととします。

①収支の改善目標について

最近5年間の工事請負費を除いた平均的な収支である 17,000 千円程度の赤字から悪化させないことを目標として設定します。

また、併せて、利用料収入の増加に向けた取り組みを推進することにより、収支の改善も目指します。

さらに、目標達成に向けて、下記の付帯意見の考え方を参考にしながら進めていくことが必要となります。

【目標設定の考え方】

これ以上の経費の節減は、安全に関わる経費を節減することにもなり、リフト運行に重大な支障を来すことから、現状の収支状況（過去5年間の平均的赤字額：17,000千円程度（【表6】）を悪化させないことを目標として設定し、かつ料金収入の増加に向けた取り組みを推進することにより、収支改善を目指す。

$$\text{収入} - (\text{支出} - \text{工事請負費}) = \blacktriangle 17,000 \text{ 千円程度}$$

【参考とすべき付帯意見】

- ・赤字額を利用者数で割り返した1人あたりの赤字額の削減を目指すべきである。
- ・休廃止を判断する修繕費の規模を決める必要がある。
- ・年間を通して、大原台地域の利用者数の増加を図る。
- ・最低限の環境整備を行う。

【表6】最近5年間の収支状況（千円）

年度	H24年度	H25年度	(H26年度)	H27年度	H28年度	年間平均 (H26年度除く)	(参考) H29年度
収入	3,305	3,328	(1,648)	1,271	2,015	2,480	3,380
支出	25,322	28,475	(37,899)	50,030	23,699	31,882	23,237
収支	▲22,017	▲25,147	(▲36,251)	▲48,759	▲21,684	▲29,402	▲19,857
支出のうち 工事請負費	5,250	7,880	(10,202)	31,525	3,917	12,143	1,939
工事請負費 を除く収支	▲16,767	▲17,267	(▲26,049)	▲17,234	▲17,767	▲17,259	▲17,918

※年間平均は、第1ペアリフトの運行停止により雪上車を運行したH26年度を除いた4年間としています。

※平成29年度は平成30年3月4日営業終了時の収支を参考数値として記載しています。

②利用者数について

1シーズンを通じた利用者数の目標を 7,500人 とします。

ただし、降雪不足等により、7,500人を下回った場合の目標は、1日の平均利用者数とし、その目標値は 170人 とします。

さらに、目標達成に向けては、下記の付帯意見の考え方も参考とします。

【目標設定の考え方】

過去の実績と平成29年度シーズンの利用者数（【表7】）を踏まえつつ、集客に繋がるイベントや商品造成等を加速させることを前提として、1シーズンを通じた利用者数の目標を7,500人とする。

ただし、降雪不足等により、7,500人を下回った場合の目標は、1日の平均利用者数とし、その目標値は170人とする。

＜参考＞平成29年度シーズン利用者数（平成30年3月4日営業終了時）

利用者数 8,652人 営業日数 54日 1日平均利用者数 160人

【参考とすべき付帯意見】

- ・1人あたりの赤字額を減らすために利用者数を増やすべきである。
- ・ファミリー向けに特化することを前提に営業日を原則、土曜日、日曜日、祝日とし、平日はイベント開催時のみ営業すべきである。

【表7】最近5年間の利用人数等

年度	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	5年間平均	(参考) H29年度
利用者数(人)	7,974	7,402	4,389	2,816	4,720	5,460	8,652
1日平均(人)	166	145	116	97	139	133	160
営業日数(日)	48	51	38	29	34	40	54

※平成29年度は平成30年3月4日営業終了時の利用人数等を参考数値として記載しています。

※平成24年度から週2日の休業日を設けています。

③関係者の取り組みについて

利用者数の増に向けた取り組みについては、「推進すべきもの」、「課題を整理して、検討すべきもの」に整理し、推進できるものは平成30年度から実施していきます。

また、取り組みを確実に推進していくには、関係機関の連携と運営に携わる人員の確保をしっかりと行う必要があります。

なお、取り組みの実施状況や成果については、市と実施主体組織等が毎年度末に検証するものとします。

【利用者数の増に向けて、推進すべき取り組み事項】

- ・黒部市と宇奈月大原台が、黒部市内の宣伝を重点的に行う。(学校、企業、団体等)
- ・黒部市が収支を大きく悪化させないことを前提に無料日や割引日を拡充する。
- ・黒部・宇奈月温泉観光局が宇奈月温泉街の事業者(旅館、総湯及び飲食店)と連携し、利用者に対する入浴及び飲食の割引等の商品造成を行う。
- ・黒部市と関係機関が連携し、企業、団体向けにシーズン券の販売を行う。
- ・黒部・宇奈月温泉観光局を中心にスキーツアーや雪に親しむツアーの誘致などを行う。
- ・黒部市と宇奈月大原台がスキー場で利用者アンケートを行い、ニーズの把握に努める。

【課題を整理して、検討すべき取り組み事項】

- ・宇奈月大原台、スキークラブ及びスキー学校が連携し、地域イベント、講習会及び競技会を多く開催する。
- ・黒部・宇奈月温泉観光局、宇奈月温泉旅館協同組合及び黒部市が連携し、平日休業日の貸し切り利用を行う。(インバウンド等)
- ・黒部・宇奈月温泉観光局、宇奈月温泉旅館協同組合及び黒部市が連携し、スキー場と温泉街利用のセット券の販売を行う。
- ・宇奈月大原台がスキー場利用者に独自の特典を付加する。
- ・黒部市と宇奈月大原台が連携し、シーズン前に小中学校、PTA及びスポーツ用品店への説明会開催等の営業活動を積極的に行う。

④改善がみられない場合の措置について

目標設定期間を平成 30 年度から平成 32 年度までの 3 年間とし、平成 32 年度シーズン後において、収支面及び利用者数における目標を達成しない場合、その後の休廃止の措置については、市が判断するものとします。

ただし、目標未達であっても、関係機関による改善に向けた取り組みが顕著と認められる場合など、特殊要因を考慮することとします。

また、突発的に大規模改修などが必要となった場合、目標設定期間の途中であっても、休廃止等の判断を行うことがあり得るものとします。

4 総 括

本委員会では、「スキー場の中長期のあり方」と「大原台地域を含めた方向性及び管理・運営方法」並びに「スキー場の当面（短期）の運営」について、協議・検討を重ねてきました。

「スキー場の中長期のあり方」については、施設・設備の老朽化、収支の悪化、利用者数の減少、従業員の確保、スキー以外の利用及びグリーンシーズンへの対応等の課題を整理し、特に収支と利用者数で改善の余地が無いか検討しました。

収支面については、安全面に関わる経費はこれ以上の節減ができないこと、利用者数は、各種取り組みにより増加させる余地はあるが、中長期的には、利用者数が大幅に増加しない限り、大規模な設備投資を行ってまで、存続することは難しいと結論付けました。

「大原台地域を含めた方向性及び管理・運営方法」については、大原台地域の観光資源としての魅力を考慮すると、通年利用の観光施設としての可能性があり、その具体的な活用方法は、本委員会ではなく、周辺地域も含めた観光振興を考える枠組みの中で行うものと位置付けました。

「スキー場の当面（短期）の運営」については、目標設定期間を3年間とした上で、収支面と利用者数の改善において、各々の目標を設定し、その達成に向けて、関係組織等が一体となり、責任を持って、「推進すべき取り組み事項」を実施していくこととし、改善がみられない場合や突発的な大規模改修などが必要となった場合の休廃止の措置は、市の判断で行うものと取りまとめました。

結びに、黒部市におかれましては、本報告書の趣旨を十分ご考察いただき、具体的な取り組みを実行されることを要望いたします。

黒部市宇奈月温泉スキー場検討委員会
委員長 森 口 毅 彦

5 参考資料

(1) 委員会設置要綱

黒部市宇奈月温泉スキー場検討委員会設置要綱

(設置)

第1条 宇奈月温泉スキー場の管理・運営及び利活用について検討するため、宇奈月温泉スキー場検討委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(所管事項)

第2条 委員会は、宇奈月温泉スキー場の管理・運営及び利活用等に関し必要事項を検討し、市長に報告する。

(組織)

第3条 委員会は、次に掲げる者をもって組織する。

- (1) 有識者
- (2) 観光振興団体の代表
- (3) 商工業振興団体の代表
- (4) スキー関連スポーツ団体の代表
- (5) 市民団体の代表
- (6) その他市長が選任した者

(委員会)

第4条 委員会に委員長を置く。

- 2 委員長は、委員会で選任する。
- 3 委員長は、委員会を総理する。
- 4 委員長が不在のときは、委員長があらかじめ指名したものが、その職務を代理する。

(会議)

第5条 委員会は、委員長が招集し、会議の議長を務める。

(事務局)

第6条 委員会の事務局は、黒部市産業経済部商工観光課に置く。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、委員会運営に関して必要な事項については委員会で定める。

附 則

この要綱は、平成19年12月18日から施行する。

(2) 委員名簿

黒部市宇奈月温泉スキー場検討委員会委員名簿

(敬称略)

区分	団体名	役職	氏名	備考
有識者	国立大学法人富山大学	経済学部教授	森口 毅彦	委員長
有識者	株式会社日本政策投資銀行	富山事務所長	石倉 慎也	
観光振興団体	一般社団法人黒部・宇奈月温泉観光局	事務局長	坂井 英次	
観光振興団体	宇奈月温泉旅館協同組合	副理事長	坂井 泉	
商工業振興団体	黒部商工会議所	副会頭	吉田 晴彦	
スポーツ団体	公益財団法人黒部市体育協会	会長	米屋 正弘	
スポーツ団体	黒部スキークラブ	事務局長	吉澤 浩司	
スポーツ団体	宇奈月スキークラブ	理事	中 勢蔵	
スポーツ団体	宇奈月スキー学校	校長	赤坂 郁人	
市民団体	黒部市自治振興会連絡協議会	副会長	能登 政雄	
市民団体	宇奈月温泉自治振興会	会長	河田 稔	委員長職務代理者
市民団体	宇奈月大原台	理事長	中島 昭彦	
その他市長選任	一般財団法人黒部市施設管理公社	理事長	上田 洋一	
その他市長選任	内山財産区管理会	会長	中村 義昭	
その他市長選任	黒部観光開発株式会社宇奈月管理事務所	所長	炭田 昭	

(3) 討議経過

第1回	開催日：平成29年8月31日(木)
	場 所：黒部市役所4階第2委員会室
主な議題等	
1 委員会設置について	
2 委員長選出	
3 委員長職務代理者の選出	
4 スキー場の現状について	
5 意見交換	
第2回	開催日：平成29年10月23日(月)
	場 所：宇奈月温泉スキー場、黒部市宇奈月国際会館セレネ会議室
主な議題等	
1 現地視察	
2 第1回検討委員会における資料作成要望について	
3 スキー場、大原台地域の課題の洗い出し	
4 スキー場、大原台地域の改善策の検討	
第3回	開催日：平成29年12月27日(水)
	場 所：黒部市役所4階第2委員会室
主な議題等	
1 「宇奈月大原台」がこれまで行ってきた取り組みについて(映像紹介)	
2 第2回検討委員会における資料作成要望等について	
3 前回までの意見及び課題の整理について	
4 課題に対する改善策の再検討、今後の方向性の整理について	
5 報告書とりまとめ骨子(案)について	
第4回	開催日：平成30年2月23日(金)
	場 所：黒部市役所4階第2委員会室
主な議題等	
1 前回の主な意見について	
2 当面の目標設定等に関する再検討について	
3 報告書(素案)について	
第5回	開催日：平成30年3月29日(木)
	場 所：黒部市役所4階第2委員会室
主な議題等	
1 平成29年度宇奈月温泉スキー場営業報告	
2 黒部市宇奈月温泉スキー場検討委員会報告書について	